

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102465		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム愛の里 2F		
所在地	福島市大森字街道下52番地		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように地域との関わりを多く持ち、地域で安心して生活が送れる様に交流を図っている。そしてケアの面では個性を大切に1:1で関わる時間を多く持ち個別リハビリや、コミュニケーションを図る手段としてくもん学習療法を取り入れている。くもんは1人30分程度「読み書き」「計算」を行い認知機能や前頭前野機能の維持、向上を図り認知症の進行 防止に努めている。また地域との関わりの方では、近隣への買い物、外食、ドライブ等地域との関わりを継続、そして1年に1度観光バスで家族様も同行しての日帰り旅行等家族様との関係も継続できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で作り上げその主旨に添って職員全員会議等で話し合いを持ちながら、個人を尊重し個々に添ったサービスの提供を職員一丸となって行っている。また、地域との交流も大切にし、イベント等の参加や訪問等も積極的に行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(清掃、運動会、地域包括主催の研修)等に参加したり、事業所の行事にも近隣の方々に参加を頂き、地域との交流連携を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に避難訓練を行い、委員の方々には入居者様の現状を理解して頂いたり、地域の方々には、行事等の参加に協力や支援うい頂いている。他に近隣への外出の機会も設け、交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議には積極的に参加を頂き事業所の利用状況や活動状況を報告し、助言や意見を頂き検討し、サービスの向上に繋げている。(エスケープ時対応、非難訓練等の対応等)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告時には市を訪問し利用者様の現状を報告したり、地域包括支援センター職員とは運営推進会議等を利用し状況を報告、相談助言を頂いたり協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には職員交代で参加し会議等で報告 話し合いの機会を設け身体拘束と虐待防止について知識を習得している。玄関は常時日中は施錠せず、利用者様にはその都度適切な対応を検討し実施している。(ベット上での動きを察知するために布団に鈴をつける。いつも職員の視野に入る所の居室へ移動する等)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的精神的にも虐待が行われないように、日々会議等で話しあったり研修に多く参加し、勉強に取り組んでいる。そして、不適切なケアをしていないかを確認したり、見逃されていないか職員同士コミュニケーションを密に取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し職員が理解を深め、必要にある利用者の家族様には、情報を提供したり、担当者の訪問時にも情報を提供し協力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に一度来所頂き施設内を見学して頂いたり、利用者様 家族様が不安なく入居できるように説明し納得いただいてから契約締結する。改定時には、家族報告会での説明や、文章で周知徹底を図り理解納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開催される家族報告会で意見要望等を伺ったり、随時来所時に伺い職員会議で話し合い運営に反映させる。また、玄関に意見箱を設置いつでも投稿できる体制を取っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回(ユニット毎、全体会議)の会議や、随時必要時に話し合いの場を設け、職員の意見を聞きとり改善したり、必要時には稟議書を提出し検討し対応している。(避難通路の確保、機械浴の検討等)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給は毎年実施、賞与も2回支給され資格所得者には報酬制度があったり、人事評価なども利用し、個々に向上心をもって働けるように体制作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の機会を設け資格所得希望者には便宜を図ったり、個々にあった実力を把握し法人内の職員移動を行い技術向上に繋がる環境作りをしている。他に2ヶ月に1回勉強会を実施したり、法人全体の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修等に積極的に参加し、他の同業者との意見交換をしたりと交流を行っている。また、研修の中で他のグループホームの見学の機会を設け業務の改善に取り組んだりサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族との面談の時間を設けセンター方式を活用して、本人の生活歴や入所に至るまでの経緯等を理解し、要望に耳を傾けながら本人が安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションの場を多くもち、家族の気持ちに寄り添いながら、いつでも気軽に相談できるように担当職員も決め連携を図ったり、環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との話し合いの場を設け意向を確認し、情報を提供しながら必要な支援を見極め、他のサービス利用等にも繋げるように努めている。(福祉用具、オムツ等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事(残存機能を活用)は一緒にいき生活に意欲を持ってもらえる様に考慮しながら、介護することばかりではなく一緒に生活を共にすることを前提に関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化する体調や要望等は随時家族様に報告来所を促したり、支援の方法を検討したり本人と家族の絆を大切にしながら対応している。また行事等に参加を頂き、利用者様と一緒に時間を共有いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美美容所に出かけたり、訪問して頂いたり、通院もなるべく以前と同じ所で馴染みの人や場所との関係を断ち切らないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格や状況によりフロア内での席替えを行ったり、レクリエーション時等は、孤立せずに利用者同士が関わり合い、楽しい時間が過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても行事等の案内を出し参加を促したり、本人、家族様へ情報の提供や相談、支援に努めている。(クリスマス会への参加、芋煮会への参加等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの時間を利用したり、日々の会話の中から本人の意向や希望を確認する。困難時は表情や動作から思いを察知しそれを職員間で共有し、本人本位のケアにて努めている。情報収集の一環としてセンター方式を活用し日々情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い家族様や本人から聞き取りを行い、心身の情報や暮らしの情報を把握している。また、家族様の来所時には何度となく伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を尊重し、残存機能は極力活用しながら生活を支援している。心身状況については、日々の生活の中での言動に着目し、状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議の中で評価をし、家族様へ説明をし了解を頂きながら介護計画を作成している。必要時は他職種とも連携を図り、意見を聞きながら現状に即した計画が出来るよう努めている(訪問リハ等)。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録簿を作り随時記録し、申し送り簿に記載しスタッフ同士情報の共有を図り、ケアを見直し実践に反映したりしている。また、その日に変化があったときにはスタッフ同士声をかけあったりとその都度対応も行い、継続性のある時は介護計画書に落としてケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の希望により歯科医師による口腔ケアや必要時の往診また訪問理美容等地域資源を活用したり地域のボランティアを受け入れサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を活用し近くの店に買い物に行き支援を受けたり、公園や近隣の食堂に出かけたり、畑に出た時は地域の方々と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は状況に応じて家族様と相談し不安なく安心して受信が出来るように受信時は情報提供し可能であれば受信同行を家族様に依頼している。家族様の意向により協力病院の往診も受け入れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職だけで判断せず看護婦と連携を図り支持を仰ぎながら、利用者様が適切な受診、介護、ケアが受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対し確実な情報を提供し確実な治療が受けられるように支援している。そして、入院中は病院を訪問したり随時電話にて状況を伺い、早期に退院できるようにアプローチしている。主治医と連絡を密に取り今後の対応策も検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方についてグループホーム内で出来る事を説明し、看取り介護に関する指針により利用者様家族の同意を得ている。状況の変化により随時意向を再確認し、病院の受け入れの了解も得ている。日々研修を受けたり、関係機関とも情報を共有し、チームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習会を受講したり、急変時や事故発生時等マニュアルを作成しグループ内で研修を行い習得している。また、随時状況の変化時は、職員で勉強を行っている。愛の里全体の研修も行っている。(看護師による救命救急、AEDの使い方等の指導)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の愛の里の全体の消防署立ち合いの訓練や、年6回の独自の避難訓練には地域の方々にも参加して頂き、(運営推進会議時)地域との協力体制を築いている。同時にアドバイス等を頂きながら、避難方法等も検討し実践力も身に付けている。(水害時、火災時等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に尊重を重視し、日々の声掛けや、対応について会議時に話し合ったり、その都度気づいたときは職員同士注意しあったりしている。特にプライドの高い人への言葉がけには注意し、個々に合った言葉がけが出来るように気をつけている。入室時には必ずノックをし声掛けにて了解を得て入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にコミュニケーションを密にとり本人の思いや希望を聞いたり察知したり、可能な限り希望に添えるように努めている。介護の中では利用者様が自己決定し日々生活できるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その人のペースを大事にし本人の意向を聞きながら強制することなく生活を行って頂いている。(食事の時間や入浴の時間、レクリエーション等の参加)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に洗濯をした清潔な物を準備し、本人に好きな洋服を選んでもらったりしている。外出時には利用者様と相談し、おしゃれ着に交換して出かけている。訪問理美容時には好きな髪型になるようスタッフが助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事メニューは利用者様と考えたり、調理の下ごしらえを手伝って頂いている。食事前には口腔体操を行い、誤嚥がなく美味しく食べることが出来るように支援している。また、食材の買い置きはなくその都度新鮮な食材を購入し1か月に1度は栄養士による点検を受けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回栄養バランスガイドのチェック状況等を栄養士に見てもらいアドバイスや指導を受けている。また、毎回の摂取量や水分量も毎チェックし毎月体重の増加も考慮しながら支援している。嚥下状態により食材や形態も検討し個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや入れ歯の清掃を行い、夕食後は舌苔ブラシを使用している。月1回希望者は歯科医の口腔ケアを受けアドバイスを受けている。必要時には受診治療を促し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の個々の排泄パターンをチェック把握し、時間でトイレ誘導を行ったり声掛けをしてトイレでの排泄を支援している。極力自立できるように着衣等も考慮して対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し食べ物 飲み物等(ヨーグルト、牛乳、果物)や内服薬等で調整を図っている。同時に腸の動きが良くなるように運動(体を動かす)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しむことができるように入浴剤を入れたり季節のもの(ゆず等)を入れ季節感を味わって頂いたり、曜日や時間帯は決めずに個々の希望やタイミングを図って入浴を行っている。同時にコミュニケーションを図りながら安心して安楽入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、午睡し、その日の体調をみながら随時休息を促している。夜は個々にあった就寝時間を尊重し、フロアでテレビを見たり一緒に話をしたり今までの生活習慣を維持しながら安心して安眠できるように支援していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保管いつでも内容確認できるようにしている。服薬介助も担当を決め確実にしている。薬の変更時は申し送り簿に記入しスタッフ全員に周知徹底している。異常時はすぐに報告できる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存機能を活用して出来る事(掃除、洗濯畳み、茶碗拭き、お盆拭き)など分担しながら行っている。レクレーションも利用者様が楽しんで参加できるものを提供し意欲向上を図りながら気分転換等の支援おこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1、2度利用者様の食べたい物を聞きまたは、利用者様との会話の中で食べたい物を探り外食へ出かけたたり、その他にも天候をみてドライブや散歩へ出かけている。年に1度は家族様も含めてバス旅行へ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を家族様より預かり事務所が管理し外出時や買い物時には、好きな物を買ひ、支払等は能力に合った支援をしている。また自力管理を希望する方には、家族様了解のうえ少額のみ持参していただき、買い物時見守りを受けながら支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員支援の下、家族様へ電話をしたり1年2回(暑中見舞い、年賀状)は、可能な方には自筆でハガキを書いてもらい家族様に輸送している。家族様からも電話もいつでも引きついている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう毎月壁画をかえたり、作品や写真を掲示し、温度等を調節しながら住みよい環境作りをしている。また玄関には季節の花を植え替え花の手入れも職員と一緒にしている。毎日定期的に換気も行い、臭いのない環境作りにも心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように数カ所にテーブルやソファを置き置のスペースも確保し、好きな場所で好きな人と過ごせる環境作りをしている。また猫も飼っていて利用者様の癒しにもなり共同生活をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室は個々に家族様と相談しながら、馴染みの物、大切にしている物等を持ってきてもらい、配置等も勘案しながら、障害物がなく安心して過ごせる環境作りを行っている。また常時見守りが必要になった時は利用者様、家族様の了解の下居室移動を行っている。居室の掃除(整理、整頓)等は出来る利用者様と一緒に話をしながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないようにドアには飾り物をさげたり、居室の入り口には本人が自覚できるような物をつけたり、安全に出来るだけ自立した生活が出来るように支援している。またフロア内のテーブルにも自力で移動できるように椅子の座布団等で見分けが出来るように対応している。		